

2015年 4月15日

久しぶりに書き込みをする。今日、仕事で外出した折り、根津にある弥生美術館に行ってきた。東大の裏にある小さい美術館で、企画展示で橘小夢展をやっていたからだ。隣接する竹久夢二美術館も訪ねた。と言っても同じ入場券で両方入館できるからだ。これらを見たかったのは日本美人画の流れを汲んでおり、挿絵画として日本画の画風を受け継いでいると思われたためだ。元来私の主張である日本アニメの原点が美人画と思われ上村松園、鏑木清方等の本格的な美人画の流れを汲んでいるのが日本アニメのキャラクターの描き方ではないかと思ってきた。ほとんどの感情表現が何れも顔の表情、目や口の表情で表されており、日本アニメのポイントはこれを受け継いでいるのではないかと思っている。本日鑑賞した、橘小夢、高島華宵、竹久夢二の挿絵、画風が丁度、本格的な美人画からアニメに移行する中間携帯ではないかと思ひ、これを確認したいと考えていたことによる。やはり日本画、美人画の流れが日本アニメに受け継がれていったと考えて良さそうである。鏑木清方は本格的な美人画家ではあるが、一般に清方漫画と呼ばれるものがあり、これも日本アニメの元ではないかと思っている。日本アニメが外国のアニメと決定的に違っていると思われるのは、こうした顔の表情でその人物の内面を表そうとしている点にあり。顔の表情も目と口元、顔の運びで全てを表している点ではないかと思う。けして外国の絵画のようにゴテゴテと顔の形状、凹凸を描かないでも、目と口元等で表情を良く表していると思われる。日本アニメは美人画と違い目が大きくなっては来ているが、その目でさえ感情を書き込んで書き込む辺り、美人画の描き方を受け継いでいると思われる。目の大きさも清方漫画から挿絵として有名となった高島、竹久にもこの傾向は見られ今回特に鏑木、上松等の古来の美人画から日本アニメの移行傾向が見られる。竹久夢二、高島華宵、等には少女をとりあげたものも多く、やはり日本アニメの原点になっていると思われる。日本アニメが海外でも一目置かれてる点はこうした西洋画の写実的な人の描き方と異なり、相当単純化された目元、口元の変化だけで、シンプルに表情、ひいてはキャラクターの内面まで表す技法が、海外に受け入れられたのだと思われる。シンプルな線で表せるために顔の動きなどさらに多くの情報を我見に表現で着ることが特徴なのではないだろうか？

話は変わるが世の中、自然も社会も騒がしくなっている。自然としてはまず宇宙だが、太陽の動きが慌ただしい。黒点数の変化が大きく変動しており0になったかと思うと2週間ほどで200近くまで増加したりしている。磁気嵐の影響も地球にたびたび影響を及ぼしていると思われる。また彗星、地球に接近する小惑星の数がこのところ極端に多い。幸い地球をかすめていくものがほとんどだが、地球衝突コースを進むものも現れる可能性も大きい。ただ質量は小さい方なので、小さな隕石として落下してくる状態で済んでいる。いつ大きいものがつつこんでくるか判らない。比較的小さいものが発見されるのは地球にかなり近づいてからと言われている。今年になって発見された小惑星がかなり増加している。天候不順に関しても、かなり極端に変動している。これを全て温暖化、CO2のせいにしてしまう風潮が強いが、そもそも地球が温暖化に向かっていることさえ疑問があると言われている。産業革命以降 CO2の増加で気温が上昇しているデータさえも COOPのねつ造ではないかと言われている。むしろ南極の氷床面積も近年の最大に達していると言われている。先日南極の気温が高いと話題になったが、測定された場所が、南極の南アメリカに近い突端部の気温で、マスコミの地球温暖化の方向に考えを強引に向かわせようとする意志が感じられてしょうがない。北極のシロクマの映像などもヤラセではないかと疑われている始末。地球は寒冷化に向かっているかもしれない。温暖化と騒いでる内に対応が遅れることが気にかかる。ただ海流の温度が上がっていると言われ、これも温暖化のためではと言われているが、海水温の上昇はむしろ地球の内部の活動が活発になっているためと考えた方がいいかもしれない。近年あちこちで、桁の陥没(シンクホールではなく)や隆起が報告され、火山活動も活発化してきていると言われている。どうも地球が活動期に入ったのではないかと言われている。地磁気の北極の移動も大きくなっており、時局の半天も起こりうることもかもしれない。これに伴うと思われる地磁気の減少も見られ遠からず時局の半天が起こるのではないかと言われる。また回転軸の移動も噂されており、イヌイトたちが太陽の昇る位置、星の位置が変わってきたと報告している。こうした一連の変動が、地球

の活動期の減少を示しており、近年の地表変化の原因となっているのではないかとされる。海流の温度上昇も地表の熱の上昇を反映しているのかもしれない。こうしたことから地球は変動期を迎えていると言われている。CO2の上昇で温暖化進むと考えている間に全く原因の異なる事態が進んでいて対応を間違えるのではと思う。CO2原因説などは一部の利権を持っている連中の誘導に過ぎないと思われる。日本では原発推進派の根拠となっており再稼働などと馬鹿なことを進めている。原発についてはまたどこかで意見を述べたい。これも大きな、深刻な問題と考える。いまが丁度エネルギー政策の転換を試みるチャンスなのだが、原発推進派の思惑で、馬鹿なことに原発をベースロード電源と位置づけてしまった。せっかくの電源供給の革新となるべき時期なのにマスコミも含め原発利権に絡む人たちの思惑に乗ってしまっている。誠に残念な事だ。一寸長くなったので一端ここで打ち切ろう。世の中慌ただしい中にも季節は確実に変化して、今は緑の季節になってきた。この季節の変化が今後も続くといいのだが！